学校番号	２０５

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	明解　歴史総合　（帝国出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・何故そうなったのか、原因と結果などの「過去」を知ることで、歴史の「流れ」と今を理解してください。
・授業で扱うその時代を「流れ」の中で理解し、これからどうなっていきそうかという「未来」を推測してください。
・毎時間の授業を集中して受け、また家庭でしっかり復習し、充実したノートをつくること。

2　学習の到達目標

知識及び技能…諸資料の読み解きや、地形や地政学の観点といった地理的要因からも歴史を考え、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立って考察することができる。
思考力・判断力・表現力等…学んだこと、考察したことをまとめ、的確に表現することができる。
グローバル化する国際社会の中で、世界の歴史と結びつけて、現代の社会における諸課題を考察することができる。
学びに向かう力、人間性等…社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的に学ぶ姿勢を養うとともに、学ぶ喜びを感じることができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 技能：諸史料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用し多面的・多角的に考察している。また歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れながら構想し、それを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	「近現代の歴史の変化に関わる諸事象」についての知識・技能の獲得や、思考力・判断力・表現力を身に付けることに向けて、主体的に取り組もうとしている。 また、その取組みの中で、自らの学習を調整し、より多面的・多角的に捉えようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	結びつく世界	1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	a: ・16 世紀におけるアジア各地の大帝国の繁栄とヨーロッパ諸国のアジア交易への進出を理解している。 ・琉球とアイヌが東アジアで果たした役割を理解している。 ・ヨーロッパで成立した主権国家体制と、イギリスやフランスなどの各国の国家の特徴について理解している。 ・15～16 世紀にかけてのヨーロッパ人による航海と探検についてまとめている。 b: ・アジア各地に成立した大帝国を比較し、その特徴を考察し、表現している。 ・清と江戸幕府の政治・経済政策の特徴について考察し、表現している。 ・宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきについて考察している。 ・ヨーロッパ人の海外進出によってアメリカ大陸にもたらされた影響を考察している。 c: ・アジアの国々を結んでいたアジア域内貿易の在り方について追究しようとしている。 ・江戸時代の日本の対外貿易を、東アジアだけではなく世界的な観点から再構築しようとしている。 ・ヨーロッパにおける中央集権的な国家体制の成立と海外進出の結びつきを追究しようとしている。 ・「大航海時代」の結果として進んだ「世界の一体化」と現代の「世界の一体化」＝グローバル化の共通点と相違点を見出そうとしている。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19 世紀前半のヨーロッパ 4 19 世紀後半のヨーロッパ 5 19 世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国	a: ・大航海時代以降の植民地の獲得によって、ヨーロッパ諸国が重商主義で経済を発展させたことを理解している。 ・大西洋三角貿易を展開したイギリスが技術革新へと向かったことを理解している。 ・アメリカ独立革命とフランス革命の原因とその経過について理解している。 ・ナポレオン戦争によるヨーロッパにおける変化を理解している。 ・ウィーン会議の内容とウィーン体制の特徴を理解している。 ・ウィーン体制がめざしたものと、自由主義やナショナリズムがめざしたものが対立していく構造を理解している。 ・フランスの第二帝政やイギリスの自由貿易体制の成立を理解している。 ・クリミア戦争の経過とその重要性を理解している。 ・イギリスとフランスの対外政策を国内状況とあわせて理解している。 ・イタリアやドイツの統一国家の形成について理解している。 ・どのような人々がアメリカ大陸へとわたったのかを理解している。 ・ラテンアメリカ諸国がどのようにして独立を達成したのかを理解している。 ・アメリカ合衆国の西漸運動について理解している。 ・「東方問題」に関係する国々と、問題に対する各国の論理を理解している。 ・イギリスがスエズ運河株式会社株の獲得や民族運動の弾圧を通して、エジプトを段階的に植民地化したことを理解している。 ・地図の比較から、ヨーロッパによる東南アジアの植民地化を読み取っている。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・中国が欧米列強と結んだ不平等条約の内容とその結果について理解している。 ・ラクスマンの来航からペリーの来航による開国までの日本をとりまく周辺環境の変化を理解している。 ・開国を転換点として、江戸幕府と朝廷・諸大名の関係に変化が生じたことを理解している。 b: ・産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化、軍事技術の発展などによって西ヨーロッパを中心とした植民地支配が一層拡大したことを考察している。 ・アメリカ独立革命がその後の世界にあたえた影響を比較しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・フランス革命がその後の世界にあたえた影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資本主義に対抗する論理として社会主義がうみ出された背景について、具体的な人物などをあげながら考察している。 ・ビスマルク外交の基本方針が、どのように外交政策に反映されたかを考察し、表現している。 ・19 世紀の文化・科学と社会の変容を、具体的な例をあげながら表現している。 ・アメリカが南北戦争へと進んでいく背景である、北部と南部の対立構造について考察し、表現している。 ・南北戦争後の黒人差別について、理念と実状との違いについて多面的・多角的に考察している。 ・オスマン帝国による改革とその限界について考察している。 ・イギリスがフランスやインドの諸勢力との戦いによって、インドを段階的に植民地化した過程を考察し、表現している。			

			・太平天国の乱後の中国における改革とその限界について考察している。 ・開国によって世界と結びついたことによる江戸幕府や諸藩における知識・技術の受容と、日本と欧米諸国とのあいだの貿易の特徴を考察している。 c： ・産業革命を単に技術革新としてとらえるのではなく、国内外にもたらしたさまざまな変化を注視しようとしている。 ・産業革命による人々の生活の変化を追究しようとしている。 ・アメリカ独立革命とフランス革命によってうみ出された理念や考え方について追究しようとしている。 ・二つの革命の歴史的意義を見出そうとしている。 ・ウィーン体制によってフランス革命以前に戻そうとする試みが、民衆の反発によって崩されていった点を見出そうとしている。 ・ドイツとイタリアの統一運動が失敗に終わった要因を見出そうとしている。 ・今日の国家につながるイタリアやドイツの統一が、ヨーロッパのパワーバランスにどのような影響を与えたのかを検討しようとしている。 ・19 世紀の文化と科学が今日の社会にも影響をあたえている点を見出そうとしている。 ・独立当初のアメリカ合衆国は必ずしも今日のような大国であったわけではなかったことを理解し、西方への領土の拡大がアメリカ合衆国の発展とどのように関係しているのかを追究しようとしている。 ・今日のアメリカ合衆国における黒人差別の問題と南北戦争が結びつく構造を見出そうとしている。 ・エジプトとインドにおけるイギリスの植民地化の過程を比較し、共通			

			する点や構造を見出そうとしている。 ・東南アジアにおける今日のあり方と植民地化の歴史について追究しようとしている。 ・開国後の欧米列強との貿易における中国と日本の輸出入品から、共通点や相違点を見出そうとしている。 ・幕末の動乱と欧米諸国との関係について、事件を整理しながら追究しようとしている。			
	明治維新と日本の立憲体制	1 明治維新と諸革命 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制	a: ・大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。 ・四民平等へ向けた諸改革を理解し、文明開化の風潮と広まりを整理し、理解している。 ・明治新政府が、諸外国と具体的にどのような関係を築こうとしたかをまとめている。 ・隣国である清・朝鮮と結んだ外交関係を理解している。 ・日本人の海外渡航がおこなわれた社会的な背景を理解している。 ・自由民権運動の展開について、民撰議院設立の建白の史料をもとに、その目的を整理し理解している。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解し、その下で成立した制度や諸法典の内容を理解している。 b: ・大政奉還の上表・五箇条の誓文の史料を読み、新政府の方針を比較して共通点・相違点を考察している。 ・四民平等の原則により、同じ義務をもつ国民が形成され、徴兵や租税の徴収がどのようにして実施されたのか考察している。 ・日本が導入した欧米からの新技術について具体的に考察している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・清・朝鮮・ロシアとの国境について、史料や地図をもとに考察している。 ・自由民権運動の展開について、民権運動の担い手側と政府の側の双方についてその動きを比較して、表現している。 ・松方財政について政策の内容を理解し、それが自由民権運動にどのような影響をあたえたかを、具体的な事件にもふれて考察している。 c: ・新政府の方針をとらえるとともに、諸藩がどのように対応したかを、新政府側、諸藩側の立場にたって探究しようとしている。 ・文明開化の内容とその風潮や広まりについて調べることを取り組もうとしている。 ・岩倉使節団が、具体的にどのような国々を訪問し、何を視察して帰国したのか調べ、協議し、追究しようとしている。 ・条約や条規の内容をもとに、日本の領土画定の経緯とその課題について調べ、追究しようとしている。 ・大日本帝国憲法の史料を読み、その内容について現在の日本国憲法と比較して、相違点や共通点について具体的に追究しようとしている。 ・大日本帝国憲法や諸法典が具体的にドイツ理論やフランス法からどのような影響を受けているかを追究しようとしている。			
	帝国主義の展開とアジア	1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の展開 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響	a: ・明治政府の条約改正の展開が、清を中心とした東アジアの国際関係にどのような影響を与えたのか理解している。 ・日清戦争の原因・過程・結果を年表にまとめている。 ・日清戦争後に政府が軍備拡張と産業育成を進めるにあたり、政党がどのように対応したかを理解している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・日本の産業革命について、どのような特色をもち、国内や貿易にどのような影響をおよぼしたかを理解している。 ・産業革命の進行と同時に就学率が向上したことを理解し、学校教育・学校制度がどのように展開したかを年表にまとめている。 ・第２次産業革命の概要を理解し、その後の経済活動にあたえた影響を理解している。 ・帝国主義について、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向をまとめている。 ・アフリカ大陸が植民地化されていく過程を理解している。 ・太平洋諸地域の分割が、世界の一体化の動きのなかで進展していくことを理解している。 ・列強が中国に進出したことに対して、中国の人々はどのように対応したかを理解している。 ・日露戦争がおきた背景・過程・結果を年表にまとめている。 b: ・日本が、朝鮮・清に対してどのような過程を経て条約を締結したかを表現している。 ・条約改正の背景や要因について、多面的・多角的に考察している。 ・日清戦争後の、政府と政党の動きについてその推移を考察している。 ・日本に、欧米の技術が本格的に導入されてから、資本主義のしくみがどのように展開したかを鉄道・紡績などを比較して、考察している。 ・軽工業・重工業の発展にともない、工場労働者たちはどのような動きをし、それに対して政府はどのように対応したかを考察し、表現している。 ・第２次産業革命の内容を理解し、どのように展開したかを考察している。 ・帝国主義の生まれた背景や進展に			

			ついて、主要国の動向を考察し、表現している。 ・列強とよばれる国々が、世界の大半の地域を支配下におさめていく過程を年表にまとめ、整理し、考察している。 ・列強が、二極分化していく動向を、各国の思惑もふまえて、比較しながら考察している。 ・中国で列強の権益獲得の動きが活発化したことで発生した民衆の動きを表現している。 ・清朝の滅亡と中華民国の成立について、原因と辛亥革命の過程をまとめて考察している。 c: ・山県有朋首相の演説や「脱亜論」の史料を読み、その内容を比較して、相違点や共通点を具体的に追究しようとしている。 ・日清戦争の原因・過程・結果を考察し、その後の日本の台湾・朝鮮の統治について追究しようとしている。 ・産業革命の発展について、産業別に比較し、具体的に考察し追究しようとしている。 ・産業革命の影響は人々の生活にどのような変化をもたらしたのかを、工業面、農業面など多面的・多角的に追究しようとしている。 ・帝国主義の時代が、世界の一体化を進めたことについて、過程・結果、そしてその後の現代にいたる影響について深く、追究しようとしている。 ・帝国主義について、列強の植民地化という観点と、アフリカ・太平洋諸地域・ラテンアメリカの国々の抵抗という観点を多角的にとらえて、追究しようとしている。 ・列強の動きに対して、植民地された地域において人々はどのように対応していったかを追究しようとしている。 ・日露戦争の結果、日本国内や周辺地域（朝鮮・満洲）にどのような影響を			

			およぼしたか、多面的に追究しようとしている。 ・インド・東南アジアの民族運動、西アジアの革命について、その動向を追究しようとしている。			
2 学期	第一次世界大戦と大衆社会	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	a: ・第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解している。 ・二十一カ条の要求に対する日中両国の動きを理解している。 ・ロシア革命に対する内戦の構造と、日本がシベリア出兵をおこなったねらいを理解している。 ・第一次世界大戦後のパリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑を理解している。 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制による国際秩序のあり方を理解している。 ・ガンディーに象徴されるインドの民族運動を理解している。 ・東南アジア各地域における民族運動とその指導者について理解している。 ・西アジアにおける民族と宗教の分布図から独立や国家建設の動きを読み取っている。 ・第一次世界大戦後のアメリカの情勢とアメリカ社会のあり方が、どのように大量消費社会に結びついていったのかを理解している。 ・第一次世界大戦後のアメリカにおける大衆化と保守化について理解している。 ・普通選挙の実現にいたる護憲運動を展開した人々の動きと、政府側の対応の推移を理解している。 ・大戦景気が日本経済にあたえた影響を理解している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・ 授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			b: ・バルカン半島の地理的・民族的・宗教的な複雑さをもとに、バルカン諸国の対立が第一次世界大戦の開戦に影響をあたえたことを多面的・多角的に考察している。 ・戦時外交とアメリカの参戦が戦争の展開にあたえた影響を考察している。 ・第一次世界大戦後のイギリス・フランス・ドイツ・イタリア各国における変化のあり方を、それぞれの国の当時の情勢から考察している。 ・各国が国際協調路線をとった背景を考察している。 ・第一次世界大戦後に植民地で民族運動が活発になったことによる影響について考察している。 ・中国における民族運動の展開と、国民党と共産党の活動について考察している。 ・アメリカ社会の大衆化と、保守化による世界への影響を考察している。 ・図や写真、表などを使いながら、日本における中間層の出現や都市化による変化を表現している。 ・図やグラフを使いながら、民衆のエネルギーがどのような動きとなったか考察している。 ・普通選挙を求める運動において、天皇機関説や民本主義がはたした役割について考察している。 c: ・ロシア革命とソ連の成立の歴史的意義を追究しようとしている。 ・資料を活用し、シベリア出兵の進路からその意図を見出そうとしている。 ・パリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑が条約の内容にどのような影響をあたえたのかを見出そうとしている。 ・国際連盟と国際協調路線のなかで結ばれた条約について、その成果と限界を追究しようとしている。			

			・各地での民族運動の展開を比較しながら、その共通点と相違点について追究しようとしている。 ・第一次世界大戦後の西アジアにおける民族運動の展開が、今日の中東情勢に大きく関係していることを見出そうとしている。 ・アメリカで成立した大量消費社会が日本の大衆文化・消費文化につながっていくことを追究しようとしている。 ・クー＝クラックス＝クランなど、今日にも残る保守系組織がこの時代に誕生したことを見出そうとしている。 ・普通選挙法とともに、護憲派の内閣が治安維持法を制定した理由を追究しようとしている。 ・第一次世界大戦後に労働運動や社会運動が活発化する背景と展開を国際社会の状況と比較しながら検討しようとしている。			
	経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満洲事変 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争	a: ・世界恐慌の発生の原因・過程・結果について理解している。 ・世界恐慌中の各国の鉱工業生産指数のグラフを読み、国ごとの回復状況を比較し、理解している。 ・アメリカのニューディール政策と外交政策の変化を年表にまとめている。 ・ドイツを中心としたファシズムはどのようにして台頭してきたか年表にまとめている。 ・ドイツの台頭によって、イタリアがどのような政策を展開していくか理解している。 ・金融恐慌がおこった原因・過程・結果について理解している。 ・銀行数と５大銀行の占有率の変化のグラフをみて、金融恐慌の結果、市場はどのような状態になったか理解している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・二・二六事件のおこった背景・過程について考察したうえで、その後の政府・軍部の動向を理解している。 ・日中戦争のおこった背景・過程について理解している。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。 ・国内の人びとの生活や、中国・朝鮮から動員された人びとの生活がどうであったか理解している。 b: ・世界恐慌に対して、各国の対応策を比較し、表現している。 ・ソ連の計画経済にもとづく社会主義の政策が世界恐慌にどのように対応することができたかを考察し、表現している。 ・フランス・スペインで成立した人民戦線政府を比較し、その後の動きを表現している。 ・ソ連の体制とファシズム体制はどのような点で類似していたかを考察し、表現している。 ・中国における北伐に対し、田中内閣はどのような対応をしていくことになったのかを考察している。 ・金解禁の実施、世界恐慌の影響、昭和恐慌への対応を年表にまとめて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・二・二六事件、日中戦争、三国同盟にいたる時期を年表にまとめて、その動向を表現している。 ・この時期の、日本の国民生活の変化について考察している。 ・日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。 ・日米の主要物資の生産高を比較して、日米の差がどのくらいあったのかを考察し、表現している。 c: ・世界恐慌は、国際秩序にどのような変化をもたらしたか、資本主義国・社			

			会主義国の視点から多面的・多角的に追究しようとしている。 ・ドイツの拡張政策に対して、ヨーロッパ諸国はどのように対応していったのかを追究しようとしている。 ・ドイツとソ連が独ソ不可侵条約を締結するにいたる過程を追究しようとしている。 ・満洲事変の原因・過程・結果を考察し、その後の日本の満洲での政策を追究しようとしている。 ・五・一五事件の背景・結果を考察し、その後、日本は国際社会でどのような立場になるかを追究しようとしている。 ・日中戦争の長期化は、日中両国の人びとや国際社会にどのような影響をもたらしたのか、多面的・多角的に追究しようとしている。 ・三国同盟の締結が、イギリス・アメリカに対して与えた影響について追究しようとしている。 ・第二次世界大戦の終結にいたる連合国側の会議について時系列にその内容を追究しようとしている。 ・第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその嚆矢について追究しようとしている。			
	戦後の国際秩序と日本の改革	1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立	a: ・第一次世界大戦、第二次世界大戦を経て、国際社会は平和と安定をどのようにして構築していこうとしているか理解している。 ・「大西洋憲章」を読み、国際秩序をどのようにして構築していこうとしたか理解している。 ・中華人民共和国の成立の過程を年表にまとめて理解している。 ・朝鮮戦争の原因・過程を理解して、東アジアの諸地域や中華人民共和国・中華民国にあたえた影響を理解している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・連合国は、どのような面で日本の民主化を進めていったのか理解している。 ・戦後の日本の改革を年表にまとめている。 ・日本の占領政策の転換について、その理由を考察し、どのように進めたかを理解している。 ・日本の独立回復のための、単独講和論と全面講和論のそれぞれの主張を理解し、国際社会へどのように復帰したか理解している。 b: ・国際連合のしくみと内容について、政治的・経済的な面から理解して、新しい秩序にどう対応していくか考察している。 ・ドイツの分割統治について、アメリカ・イギリス・フランス側とソ連側を比較して考察している。 ・東アジア諸国の独立の経緯を考察し、旧宗主国はどのような対応をとったのかを、各国別に表現している。 ・インド・パキスタン・セイロンの独立について、どのような問題がおきたのか考察している。 ・日本国憲法の制定の過程を考察し、どのような手続きを経て公布、施行されたかを表現している。 ・日本国憲法を読み、大日本帝国憲法と比較して、どのような点が変わったのか、変わった理由について考察し、表現している。 ・サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約の史料を読み、日本が認めた内容を考察している。 ・日本は約７年ぶりに独立を回復したが、どのようなかたちで国際社会に復帰したかを考察している。 c: ・冷戦という新たな対立がおこった、背景・過程・結果を追究しようとしている。 ・米ソの巨大化にともない、ヨーロッパ諸国が弱体化していくことについ			

			てその理由を追究しようとしている。 ・第二次世界大戦後のイスラエル成立によりパレスチナ問題が深刻化したことについて考察し、どのようにして解決できるかを追究しようとしている。 経済の民主化、労働運動の進展、農地改革を多面的・多角的に考察し、戦後処理のあり方を理解し、追究しようとしている。 ・日本の復興の実態とそれにともなう政策について追究しようとしている。 ・日本の占領政策が、民主化優先から経済優先へと転換された理由・過程を、国際社会の動向をふまえて多面的・多角的に追究しようとしている。			
3 学期	冷戦と世界経済	1 集団防衛体制と核開発 2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興 4 第三世界の連携と試練 5 55 年体制の成立 6 日本の高度経済成長 7 核戦争の恐怖からの軍縮へ 8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放	a: ・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解している。 ・1950 年代にアメリカの黒人差別への批判などが高まった背景を理解している。 ・東西冷戦を象徴する「ベルリンの壁」構築の背景を理解している。 ・第二次世界大戦による荒廃によって、西ヨーロッパの国際的地位が低下したことを理解している。 ・西ヨーロッパの地域統合における歩みを理解している。 ・アジア・アフリカでの新興独立国の増加と「第三世界」の形成が、国際社会にあたえた影響を理解している。 ・カシミール地方やチベットをめぐる対立からおこった印パ戦争や中印国境戦争について、その経過と結果を理解している。 ・中東戦争の経過とパレスチナ解放機構の台頭を理解できる。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

			・分裂していた社会党が統一するなかで、保守合同がおこなわれたことを理解し、二大政党の対立の実態をまとめている。 ・日本の国際連合加盟における課題であった、ソ連との国交樹立の経緯を理解している。 高度経済成長の契機を理解し、欧米を上まわる経済成長が実現した要因についてまとめている。 ・高度経済成長のメカニズムを整理し、日本の産業構造の変化を理解したうえで、農業の近代化についてまとめている。 ・ヨーロッパで進められた緊張緩和の動きを理解している。 ・核軍縮に対する米ソや国際社会の取り組みについて理解している。 ・中ソ対立のなかで、「大躍進」政策やプロレタリア文化大革命がおこり、当時の中国に大きな影響をあたえたことを理解している。 ・「プラハの春」の背景とその経過を理解している。 ・ベトナム戦争の要因とその経過について理解している。 ・1970 年代に世界経済の転換がおこった背景を理解している。 ・金ドル本位制の停止が世界経済にあたえた影響を理解している。 ・石油危機が発生した背景と世界経済にあたえた影響を理解している。 ・1960～70 年代にかけて、アジアで外資導入によって経済開発が進んだことを理解する。 ・中国における改革開放路線について理解している。 ・高度経済成長後の日本の安定成長の背景を理解している。 b: ・ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。 ・核兵器開発競争の過熱化が国際連合の下で、原子力発電の開発の本格			

			化につながったことを考察している。 ・1950 年代のアメリカ社会のあり方を軍産複合体から考察している。 ・「雪解け」や米ソ関係の冷えこみなど、冷戦下における外交関係の変化を考察している。 ・経済統合のメリットとデメリットを比較しながら、地域統合がヨーロッパ経済の発展につながったことを考察している。 ・アメリカの主導権から西ヨーロッパ諸国が脱却しようとした背景を考察している。 ・アフリカ諸国が独立後も内戦やクーデタによって安定しなった背景について考察している。 ・カストロやゲバラを指導者とするキューバ革命がラテンアメリカ諸国にあたえた影響を考察している。 ・韓国・中国との国交正常化の過程を比較して、その共通点や相違点などを考察している。 ・日韓基本条約・日中共同声明の史料を読み、それぞれの内容を理解し、その後の課題について表現している。 ・高度経済成長を支えた貿易黒字について、その推移を理解し、国際競争力を強めることのできた要因を考察している。 ・社会の変貌について、日本の食生活の変化を品目別に比較して考察している。 ・キューバ危機が核戦争の危機として緊張が高まったことを考察している。 ・西ドイツのブラントによる「東方外交」がどのような結果につながったのかを考察している。 ・ベトナム反戦運動と公民権運動がアメリカの政治に与えた影響を考察している。 ・1970 年代の米ソの威信低下、米中接近が米ソ間の関係改善につながった点を考察している。			

			・1970 年代に経済成長を重視する価値観からの変容が進んだ要因を考察している。 ・石油危機後に新自由主義が西側諸国で目指された理由を考察している。 ・アジアにおける開発独裁について、利点と問題点について考察している。 ・プラザ合意とバブル経済の関係について考察している。 c: ・地図を活用し、西側陣営・東側陣営が構築した防衛体制とおもな紛争地点から、その意図を見出そうとしている。 ・グラフから米ソの核開発競争の過熱化について見出そうとしている。スターリンの死や「スターリン批判」が東側陣営にあたえた影響から、東側陣営のあり方について追究しようとしている。 ・東西分裂期のドイツにおけるベルリンのあり方と「ベルリンの壁」が東西冷戦の象徴とされた意味を追究しようとしている。 ・EC と EFTA を、それぞれ今日の EU と EFTA と比較することで、地域統合の歴史的意義を追究しようとしている。 ・アメリカと一定の距離をとろうとするフランスやヨーロッパの姿勢を今日までの歴史のなかでほかにも見出そうとしている。 ・中東戦争の過程のなかで形成されてきたイスラーム主義やムスリム同胞団が今日でもパレスチナ問題や中東情勢に関係をもっていることを見出そうとしている。 ・第二次世界大戦後に独立したアフリカの国々で、いまだに安定していない国家について追究しようとしている。 ・日米相互協力及び安全保障条約（新安保条約）で新しく加わった内容を			

			理解し、条約改定に反対した運動がおきた理由を追究しようとしている。 ・ベトナム戦争の背景・経緯を年表にまとめて表現し、その後の課題について追究しようとしている。 ・豊かな生活を求めて消費が拡大していくことについて、その要因を多角的に追究しようとしている。 ・高度経済成長のひずみについて、地方の過疎化、都市の過密化の課題を理解し、その課題への対応や解決について追究しようとしている。 ・キューバ危機にいたるアメリカのキューバ政策への批判的な検討に取り組もうとしている。 ・今日の核軍縮と核保有国の実態について追究しようとしている。 ・「プラハの春」から派生した「アラブの春」という言葉から、「プラハの春」のもつ歴史的意義を追究しようとしている。 ・ベトナム反戦運動と公民権運動が同時期に展開されることになった背景について追究しようとしている。 ・石油危機以降、原油価格の高騰はどのような背景をもっておこっているのかを見出そうとしている。 ・省エネルギー化（省エネ）やハイテクノロジー（ハイテク）化など今日にもつながる動きがうみ出されたことを見出そうとしている。 ・開発独裁が今日にもあるとすれば、それはどのような形で存在しているのかを追究しようとしている。 ・1970～80 年代の日本の安定成長の背景にあった問題点を追究しようとしている。			
	グローバル化する世界	1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4 地域紛争の激化	a: ・ソ連のアフガニスタン侵攻が米ソ関係の悪化と軍事費の増大につながったことを理解している。 ・1980 年代のソ連の沈滞の原因を理解している。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

		5 国際社会のなかの日本	・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを理解している。 ・ゴルバチョフによるソ連の社会主義体制の改革「ペレストロイカ」の取り組みを理解している。 ・地域統合や自由貿易圏の設立とともに、世界規模での貿易を促進するＷＴＯの役割を理解している。 ・東南アジア諸国やインドにおける民主化や経済政策について理解している。 ・冷戦終結前後の韓国と北朝鮮における政治情勢や台湾の民主化の推進について理解している。 ・国際的な非難を受けた文革後の中国における統治政策を理解している。 ・1993 年のオスロ合意がパレスチナ問題において歴史的なものであったことを理解している。 ・アメリカの中東政策に対する反発から、イスラーム過激派によって同時多発テロ事件がおこされたことを理解している。 ・55 年体制の崩壊の要因と、その結果として誕生した政権の特徴を理解している。 ・自衛隊の海外派遣が可能になった経緯を理解している。 ・1995 年が戦後 50 年の節目の年であり、転換点としての位置づけを理解している。 b: ・写真から、イラン＝イスラーム革命の特徴を考察し、表現している。 ・イラン＝イラク戦争と湾岸戦争におけるアメリカの立場について考察している。 ・共産党一党支配と連邦制がどのようにソ連邦の崩壊に結びついたのかを考察している。 ・ユーゴスラヴィア紛争の背景にある宗教・民族分布の複雑さを考察している。		授業シート	

			・ラテンアメリカ諸国で民政移管が進んだ背景を考察している。 ・南アフリカでアパルトヘイト政策が撤回され、マンデラ大統領が誕生した要因を考察し、表現している。 ・アフガニスタン戦争がそれまでの戦争とは異なる点を考察している。 ・イラク戦争の問題点について考察し、表現している。 ・株価と地価の推移のグラフと歴史的なできごとから、バブル崩壊から2000 年代にいたる日本経済の低迷を考察している。 ・21 世紀に入っておこなわれた改革や政策による影響や懸念される点を考察している。 c： ・東欧革命による各国での新体制を比較し、傾向を見出そうとしている。 ・チェルノブイリ原発事故の発生から、今日までの歩みをもとに事故の意味を追究しようとしている。 ・ユーゴスラヴィア紛争における国際社会の関わり方について追究しようとしている。 ・経済を軸とした地域統合によって目指した未来像が、今日の世界経済とどのように重なっているのかを見出そうとしている。 ・マンデラ大統領が目指した南アフリカの姿を見出そうとしている。 ・市場経済の導入と民主化の要求に対する中国の対応について追究しようとしている。 ・パレスチナ自治区において分離壁が築かれ、ユダヤ人入植地が拡大していることの問題点を見出そうとしている。 ・長期化したシリア内戦において生じた 500 万人以上の国外難民とその受け入れをめぐる問題を追究しようとしている。 ・自衛隊の海外派遣の拡大や自衛隊を取りまく政治情勢の変化について追究しようとしている。			

			・日本の国際貢献のあり方の変化に、経済面などの日本の国際社会における影響力の変化を見出そうとしている。			
	現代の課題	1 現代世界の諸課題 2 現代日本の諸課題	a: ・グローバル化のなかで福祉国家体制のなかから、新たに登場した新自由主義について理解している。 ・経済格差などの課題に対してどのように対応していけばよいかを理解している。 ・エネルギー問題について、原子力発電の今後のあり方や自然エネルギーの活用について理解し、どのように対応していけばよいかを理解している。 ・人口減少の要因、今後の対応について理解している。 b: ・地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、原因・過程を理解し、どのように対応していけばよいかを考察している。 ・自然災害について、過去の歴史も調査して、今後どのように対応していけばよいかを多角的に考察している。 c: ・人間のもつ基本的人権を理解し、男女の平等、男女差別とは異なる性的差別の問題にも着目して、どのように対応していけばよいかを追究しようとしている。 ・経済発展にくわえ、観光立国としての取り組みについて追究し、これからの日本のあり方について取り組もうとしている。 ・近隣諸国との関係について、防衛強化の面・平和と安全の面といった多面的・多角的視点からよりよいあり方を追究しようとしている。	定期考査・ノートやプリント	定期考査・ノートやプリント・プレゼンテーション・授業シート	活動の様子の観察・プレゼンテーション・授業シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度